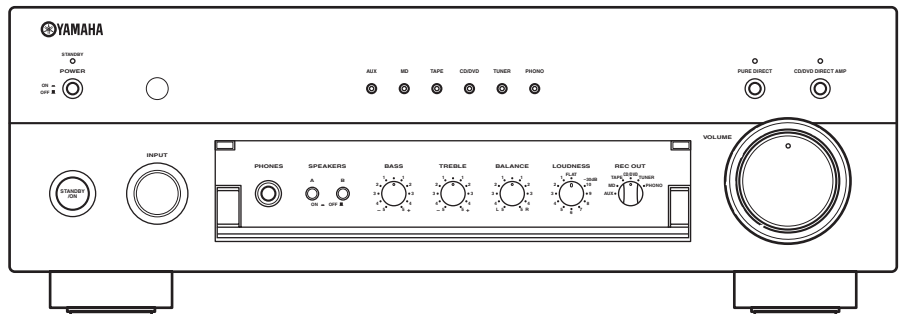


## プリメインアンプ

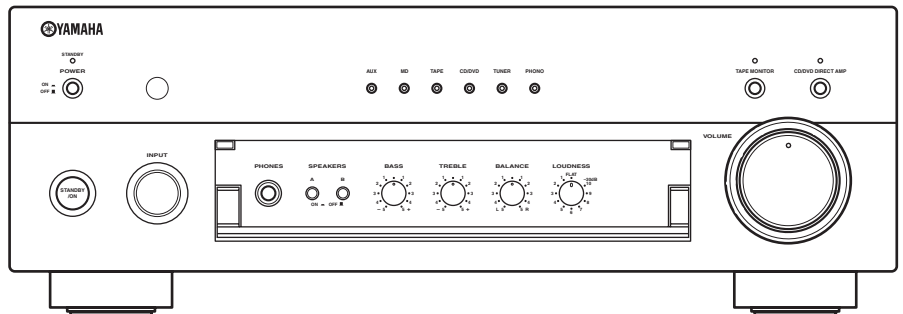
# AX-497/397

## 取扱説明書

(AX-497)



(AX-397)



ヤマハプリメインアンプ AX-497/397 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

**保証書別添付**

# 安全上のご注意




ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



### 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



## 警告

### 電源/電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音が出る。
- 異常に高温になる。
- 内部に水や異物が混入した。
- 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機のPOWERスイッチをオフ(切)にする、またはSTANDBY/ONスイッチでスタンバイ状態にしても、本機は、まだ通電状態にあります。本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

本機のアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。火災の原因になります。

### 電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。  
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐ  
に水で洗い流し、医師に相談してください。

## 分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。  
火災や感電の原因になります。  
修理・調整は販売店にご依頼ください。

## 設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。  
● 浴室・台所・海岸・水辺  
● 加湿器を過度にきかせた部屋  
● 雨や雪、水がかかるところ  
水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：  
● 布やテーブルクロスをかけない。  
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。  
● 仰向けや横倒しには設置しない。  
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。  
(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上の  
スペースを確保する。)  
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

## 使用上の注意



禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片  
など異物を入れない。  
火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず  
販売店に点検や修理を依頼する。  
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。  
感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・  
薬品・ロウソクなどを置かない。  
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。  
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因  
になります。

## 手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。  
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショール  
トして火災や感電の原因になります。

# ⚠ 注意

## 電源/電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセ  
ントから抜く。  
火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱら  
ない。  
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し  
込む。  
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグ  
にほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセ  
ントは使用しない。  
感電や発熱および火災の原因になります。

## 電池



必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス-)に従って、  
正しく入れる。  
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因にな  
ります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる  
電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。  
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなど  
に入れて携帯、保管しない。  
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの  
原因になります。



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。  
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。  
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに  
従って廃棄する。

必ず実行

## 設置



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる  
場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、  
火災の原因になります。

禁止



ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因に  
なります。

禁止

## 移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての  
接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。  
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

## 使用上の注意



電源を入れる前や、再生を始める前には、アンプの  
音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

必ず実行



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生  
することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしば  
らく放置してください。

注意

## 手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。  
感電の原因になります。

必ず実行



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。  
また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

# 目次

## はじめに

本機の特長.....	2
付属品 .....	2
各部の名称とはたらき .....	3
前面 (フロントパネル).....	3
リモコン .....	5
乾電池を入れる .....	6
リモコンの使いかた.....	6
背面 (リアパネル).....	7

## 接続

接続のしかた.....	8
外部機器を接続する.....	8
スピーカーを接続する.....	9
電源コードを接続する.....	10

## 操作

再生・録音のしかた .....	11
再生する .....	11
音質を調節する .....	13
テープデッキや MD レコーダーに録音する .....	14

## 付録

故障かな?と思ったら .....	16
主な仕様.....	18

はじめに

接続

操作

付録

## 本機の特長

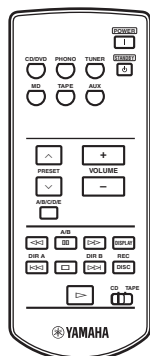
- ◆ 高出力・低インピーダンス駆動パワーアンプ
  - ◆ 連続可変式ラウドネスコントロール装備
  - ◆ CDやDVDの音声をクリアに再生するCD/DVDダイレクトアンプ機能搭載
  - ◆ 多機能リモコン
- [ AX-497 ]
- ◆ 定格出力  
85W + 85W(8Ω、0.019% THD、20Hz ~ 20kHz)
  - ◆ ソースの再生中に、別のソースを録音できる REC OUT セレクター装備
  - ◆ 入力信号を原音に忠実に再生する PURE DIRECT 機能
- [ AX-397 ]
- ◆ 定格出力  
60W + 60W(8Ω、0.019% THD、20Hz ~ 20kHz)
  - ◆ 録音中の音声を確認する TAPE MONITOR 機能

- ・本書は AX-497 と AX-397 共通の取扱説明書です。各モデルで機能が異なる場合は、それぞれのモデル名を記載しています。各項目の説明では、主に AX-497 のイラストを使用しています。
- ・※ **ヒント**は知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- ・機能によっては、本体ボタンとリモコンキーの両方で操作することができます。本体ボタンとリモコンキーの名前が違う場合は、リモコンキーの名前が括弧内に記載されています。
- ・本書は製品の生産に先がけて印刷されたものです。製品改良などの理由で一部の仕様が本書の記載と異なる場合がございますのでご了承ください。

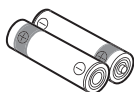
## 付属品

ご使用前に、付属品を確認してください。

### リモコン



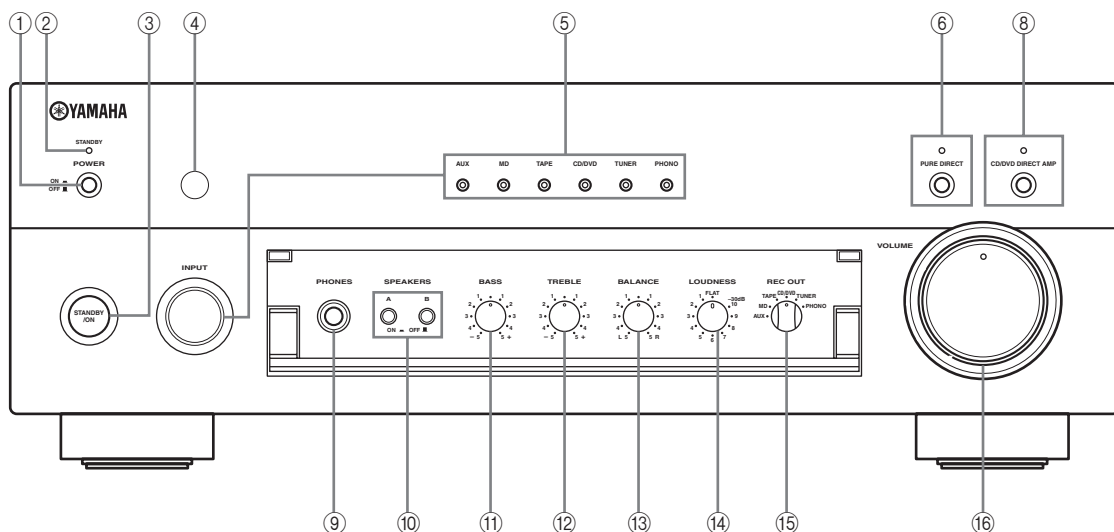
### 単4乾電池 (2本)



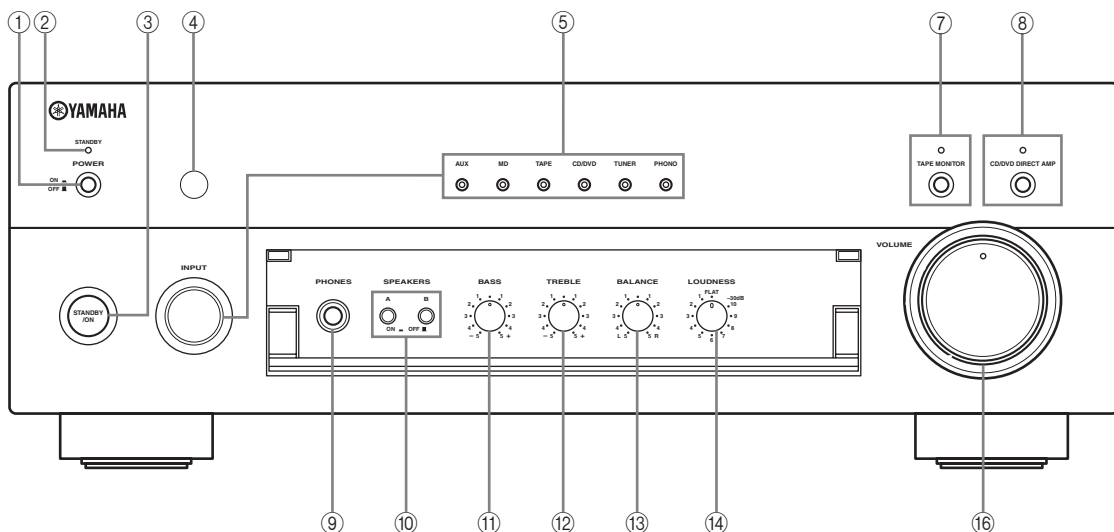
# 各部の名称とはたらき

## 前面 (フロントパネル)

### ■ AX-497



### ■ AX-397



#### ① POWER スイッチ

本機の主電源のオン/オフを切り替えます。オン (ON) のときは、フロントパネルの STANDBY/ON スイッチまたはリモコンの POWER キー / STANDBY キーで、本機の電源のスタンバイ / オンを切り替えることができます。オフ (OFF) にすると電気が遮断され、消費電力がゼロになります。



電源がスタンバイのとき、フロントパネルスイッチやリモコンキーで電源をオンにすることができます。

#### ② STANDBY インジケーター

本機がスタンバイのときに点灯します。

#### ③ STANDBY/ON スイッチ

フロントパネルの POWER スイッチが ON のとき、本機の電源のスタンバイ / オンを切り替えます。

#### ご注意

電源がスタンバイになっている間も、少量の電力を消費しています。

## ④ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

⑤ <sup>インプット</sup> INPUT セレクター / インジケーター  
(AX-497)

再生する入力ソースを選びます。選択された入力ソースのインジケーターが点灯します。

(AX-397)

再生または録音する入力ソースを選びます。選択された入力ソースのインジケーターが点灯します。

⑥ <sup>ピュア</sup> <sup>ダイレクト</sup> PURE DIRECT キー / インジケーター  
(AX-497)

音声入力信号が BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS コントロール回路をバイパスして、原音に忠実な音質で再生されます (P.13 ページ)。ピュアダイレクトモードがオンのとき、インジケーターが点灯します。

⑦ <sup>テープ</sup> <sup>モニター</sup> TAPE MONITOR キー / インジケーター  
(AX-397)

3ヘッドのテープデッキで録音しているときには、録音状態をチェックできます (テープモニター機能 P.15 ページ)。TAPE MONITOR キーを押すとインジケーターが点灯し、テープの再生音を聴くことができます。

### ご注意

- ・インジケータが点灯しているときには INPUT セレクターで TAPE を選択することはできません。
- ・INPUT セレクターで選択したソースを聴くには、もういちど TAPE MONITOR キーを押します (インジケーターが消灯します)。
- ・INPUT セレクターで TAPE を選択しているときには、TAPE MONITOR キーの操作は無効になります。

⑧ <sup>ダイレクト</sup> <sup>アンプ</sup> CD/DVD DIRECT AMP キー / インジケーター

INPUT セレクターや TAPE MONITOR キーでの選択に関係なく、CD または DVD が再生されます。

入力信号がテープモニター、BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS の各調節機能をバイパスするため、CD や DVD を高音質で再生できます (CD/DVD ダイレクトアンプ機能)。

CD/DVD ダイレクトアンプ機能がはたらいているとき、インジケーターが点灯します (P.13 ページ)。

⑨ <sup>フォンス</sup> PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンのみで聴くときは、SPEAKERS A / B スイッチを両方とも OFF にしてください。

⑩ <sup>スピーカース</sup> SPEAKERS A / B スイッチ

音声を出力するスピーカーを選びます。SPEAKERS A(B) 端子に接続されたスピーカーセットから音を出力したいときには A(B) を ON にしてください。A、B 両方から音を出力したいときには、両方とも ON にしてください。

⑪ <sup>バス</sup> BASS コントロール

低音域の周波数特性を調節します。0 の位置にすると、特性がフラットになります (P.13 ページ)。

⑫ <sup>トレブル</sup> TREBLE コントロール

高音域の周波数特性を調節します。0 の位置にすると、特性がフラットになります (P.13 ページ)。

⑬ <sup>バランス</sup> BALANCE コントロール

スピーカーの設置場所やリスニングルームの状態によって音像の位置がずれて聞こえるときに、音のバランスを調節することでずれを補正します。右 (左) に回すと音像が右 (左) に移動します (P.13 ページ)。

⑭ <sup>ラウドネス</sup> LOUDNESS コントロール

音量が小さくなるほど低音と高音が聞こえにくくなる人間の聴感特性を補正し、音量にかかわらずすべての音域を自然に再生できるように調節します (P.13 ページ)。

⑮ <sup>レック</sup> <sup>アウト</sup> REC OUT セレクター  
(AX-497)

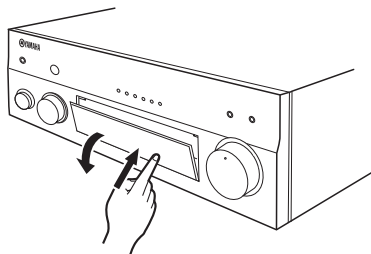
MD レコーダーやテープデッキに録音するソースを選択します。INPUT セレクターによる入力選択からは独立して選択できるため、お聴きのソースとは違うソースを録音することができます (P.14 ページ)。

⑯ <sup>ボリューム</sup> VOLUME コントロール

音量を調節します。  
REC OUT 端子の音量には影響しません。

### ■ コントロールパネルの開閉

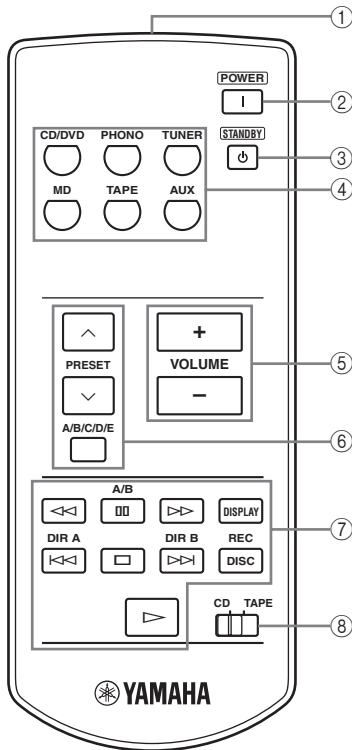
コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使うときは、パネルの下の部分を押し、パネルが開きます。コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使わないときは、パネルを閉めておきます。





## リモコン

付属のリモコンを使って、本機やヤマハ製の CD プレーヤーやチューナー、テープデッキなどを操作することができます（一部操作できない機器もあります）。



### ■ 本機の操作

#### ① 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

#### ② <sup>パワー</sup>POWER キー

フロントパネルの POWER スイッチが ON のとき、本機の電源をオンにします。

#### ③ <sup>スタンバイ</sup>STANDBY キー

フロントパネルの POWER スイッチが ON のとき、本機の電源をスタンバイにします。

#### ■ ご注意

本機の電源がスタンバイになっている間も、少量の電力を消費しています。消費電力をゼロにしたい場合は、フロントパネルの POWER スイッチを OFF にしてください。

#### ④ 入力選択キー

再生する入力ソースを選択します。

#### ⑤ <sup>ボリューム</sup>VOLUME + / - キー

音量を調節します。  
REC OUT 端子の音量には影響しません。

### ■ 他の機器の操作

詳しくは、機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

#### ⑥ チューナーキー

チューナーの各機能を操作します。

#### <sup>プリセット</sup>PRESET ^ / v キー

プリセットされた放送局の番号を選択します（1～8）。

#### A/B/C/D/E キー

プリセットされた放送局のグループを選択します（A～E）。

#### ⑦ CD プレーヤー / テープデッキ操作キー

CD プレーヤーやテープデッキを操作します。

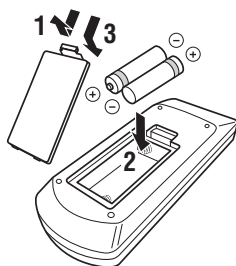


- ・ DIR A キーと DIR B キー、A/B キーは、ダブルデッキ操作用のキーです。
- ・ リバース機能付きのシングルデッキをお使いの場合、DIR A キーを押すとテープの走行方向が切り替わります。

#### ⑧ CD/TAPE 切り替えスイッチ

CD プレーヤーを操作するか、テープデッキを操作するかを切り替えます。

## 乾電池を入れる



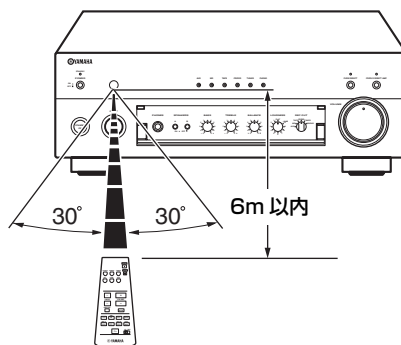
- 1 バッテリーカバーのツマミを引きながら、カバーを持ち上げる
- 2 付属の単4乾電池(2本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス (+) とマイナス (-) の向きを間違えないように、正しく入れる
- 3 バッテリーカバーをカチッと音がするまで押し込む

### ■ 乾電池に関するご注意

- ・リモコンで操作しづらくなったら、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- ・単4乾電池をご使用ください。
- ・極性 (+/-) があっているかよくご確認ください。乾電池の向きを電池ケース内の表示にあわせてください。
- ・リモコンを長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り外してください。
- ・新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- ・乾電池には、形状や色が同じものでも種類が異なるもの(アルカリとマンガンなど)があります。表示をよく読んで、種類の異なる乾電池を混ぜて使わないでください。
- ・乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- ・乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。

## リモコンの使いかた

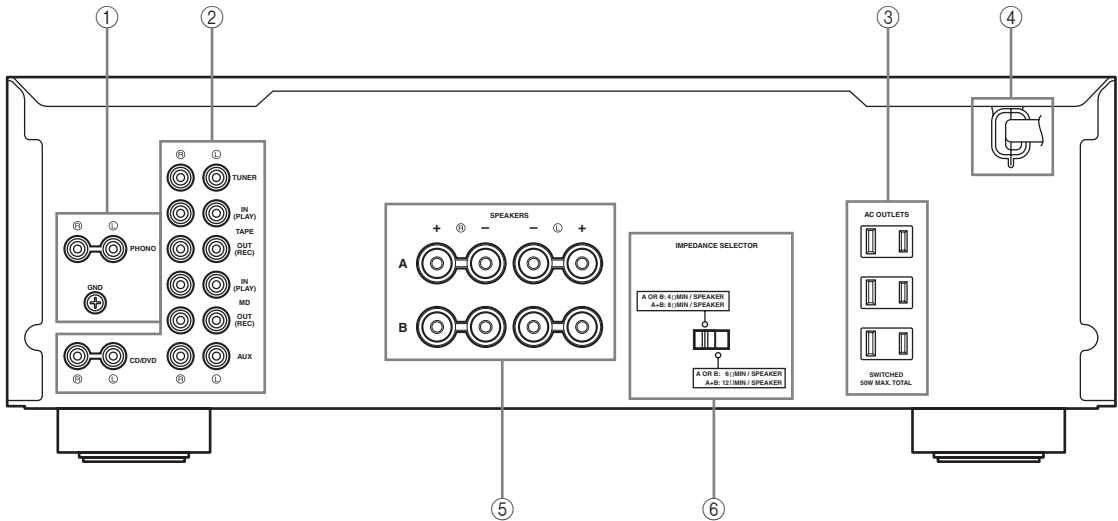
リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。操作するときは本体のフロントパネルのリモコン受光部にまっすぐに向けてください。



### ■ リモコンの取り扱いについて

- ・本機とリモコンの間に障害物を置かないでください。
- ・リモコンに水などの液体をこぼさないでください。
- ・リモコンを落とさないでください。
- ・リモコンを下記のような場所に放置したり保管したりしないでください。
  - 浴室などの湿気の多い場所
  - ヒーターやストーブの近くなどの高温になる場所
  - 温度が極端に低い場所
  - 埃の多い場所
- ・本機のリモコン受光部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっていると、本機をリモコンで操作できないことがあります。このような場合は、照明の向きを変えるか、本機を置く場所を変えてください。

## 背面 (リアパネル)

① <sup>フォノ</sup> PHONO 端子 / GND 端子

レコードプレーヤーの出力およびアースを接続します (P.8 ページ)。

GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。

## ② 音声入出力端子

CD などの外部機器を接続します (P.8 ページ)。

③ <sup>アウトレット</sup> AC OUTLETS

外部機器の電源プラグを接続します (P.10 ページ)。

## ④ 電源コード

AC コンセントに接続します (P.10 ページ)。

⑤ <sup>スピーカーズ</sup> SPEAKERS A/B 端子

スピーカーを接続します (P.9 ページ)。A 端子と B 端子にそれぞれ 1 組のスピーカーセットを接続できます。

⑥ <sup>インピーダンス</sup> <sup>セレクター</sup> IMPEDANCE SELECTOR

スピーカーシステムのインピーダンスにあわせて切り替えます。

■ <sup>インピーダンス</sup> <sup>セレクター</sup> IMPEDANCE SELECTOR スイッチ

## 重要

本機の電源がオンのときには、IMPEDANCE SELECTOR スイッチを切り替えないでください。本機が故障する原因になります。フロントパネルの POWER スイッチを押して、ON にしても本機の電源が入らない場合、インピーダンスセレクタースイッチが確実に選択されていないことがあります。このような場合、電源プラグを抜いた状態で、スイッチが止まる位置までスライドさせてください。お手持ちのスピーカーセットにあわせてスイッチの位置 (左または右) を選択してください。

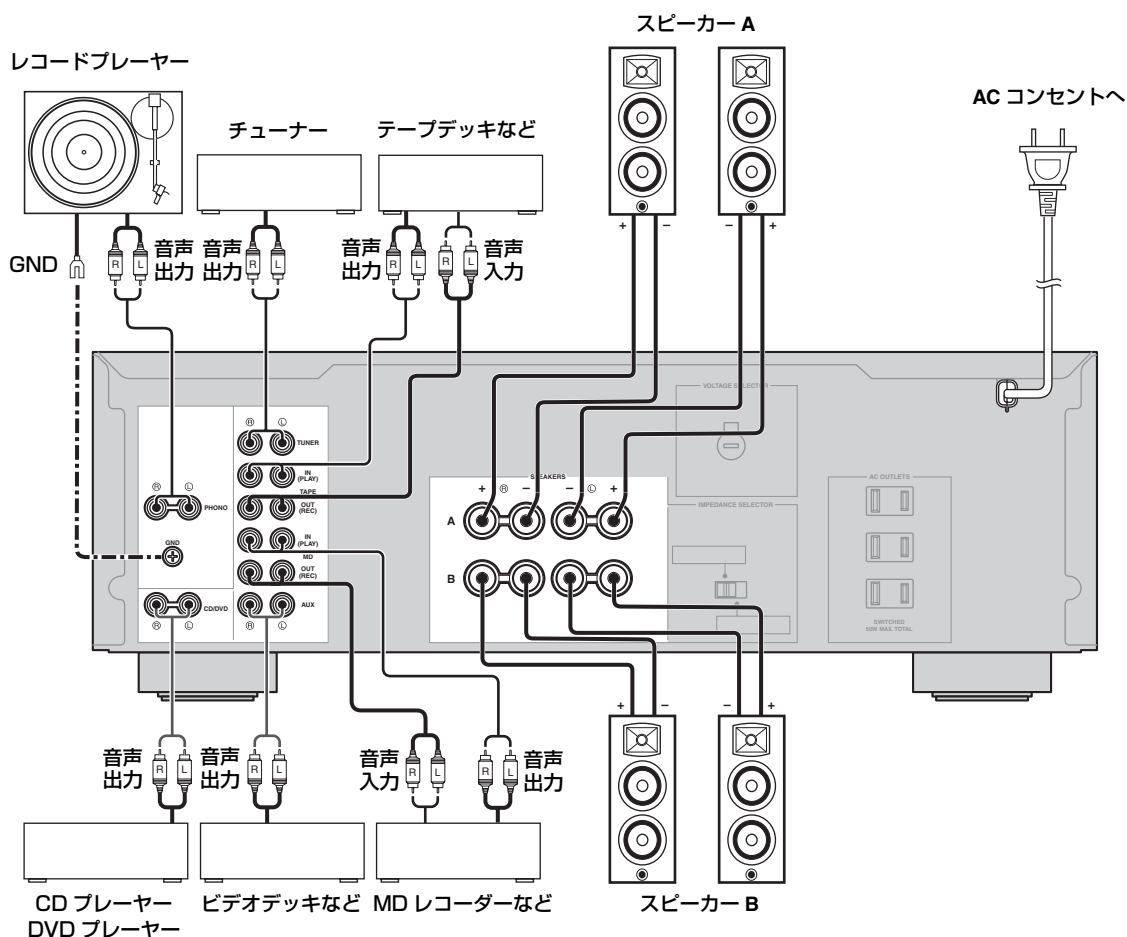
スイッチの位置	インピーダンス値
右	スピーカーが 1 組 (A または B) の場合は、インピーダンスが 6 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
	スピーカーが 2 組 (A と B) の場合は、インピーダンスが 12 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
左	スピーカーが 1 組 (A または B) の場合は、インピーダンスが 4 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
	スピーカーが 2 組 (A と B) の場合は、インピーダンスが 8 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。

# 接続のしかた

## 外部機器を接続する

### 重要

- ・ すべての接続が終わるまで本機や本機に接続した機器の電源コードを AC コンセントに差し込まないでください。
- ・ 左チャンネル (L)、右チャンネル (R)、+ (赤)、- (黒) をよく確認して、正しく接続してください。その他の機器に付属している取扱説明書もご参照ください。
- ・ スピーカーの接続を除き、他の機器との接続には RCA タイプのステレオピンケーブルをご使用ください。
- ・ レコードプレーヤーのアースを GND 端子に接続すると、雑音を低減することができます。ただし、レコードプレーヤーによっては、GND 端子に接続しないほうが雑音が少ない場合があります。



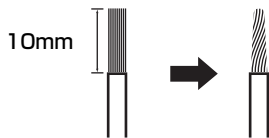
## スピーカーを接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+ (赤)、- (黒)をよく確認して、正しく接続してください。接続が間違っていると、スピーカーから音が出ない場合があります。また、極性が間違っていると、音が不自然に聞こえたり低音が出力されないことがあります。

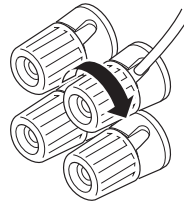
### 重要

- ・スピーカーの接続が終わるまで本機の電源を入れないでください。
- ・芯線がむき出しになったスピーカーケーブル同士を接触させたり、本機の金属部分に触れないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因になります。

### 1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を10 mm くらいはがし、芯線をしっかりよじる

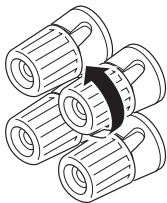


### 4 スピーカー端子を右に回して、しめる



赤：プラス (+)  
黒：マイナス (-)

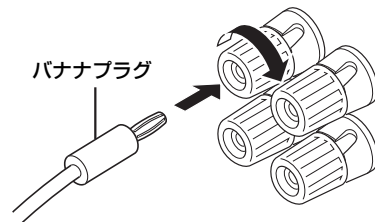
### 2 スピーカー端子を左に回して、ゆるめる



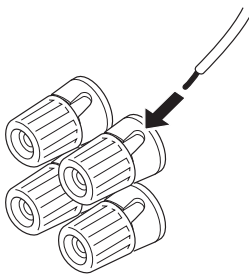
赤：プラス (+)  
黒：マイナス (-)

### ■ バナナプラグを使用する場合

端子を強くしめてから、バナナプラグを端子に差し込みます。



### 3 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む



赤：プラス (+)  
黒：マイナス (-)

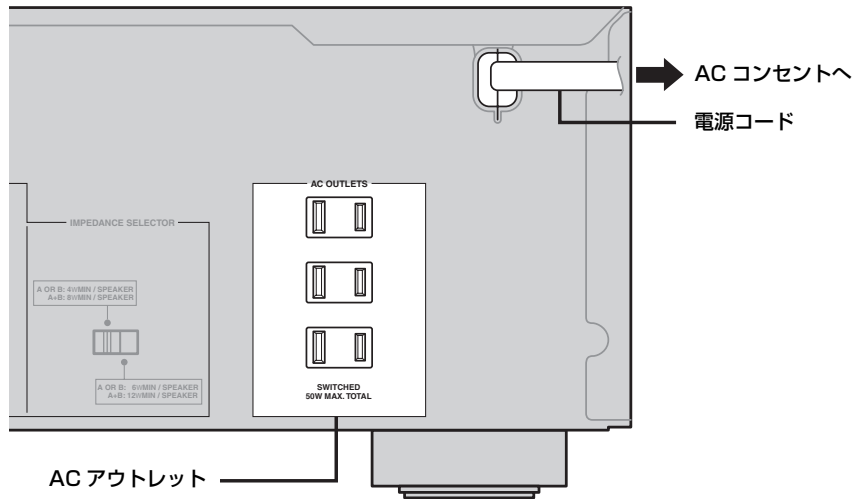
※

1 組または 2 組のスピーカーセットを本機に接続することができます。スピーカーセットを 1 組だけ接続する場合は、SPEAKER A または B のどちらの端子にも接続することができます。

### ご注意

本機のリアパネルに記載されたインピーダンスのスピーカーをご使用ください。

## 電源コードを接続する



### ■ 電源コード

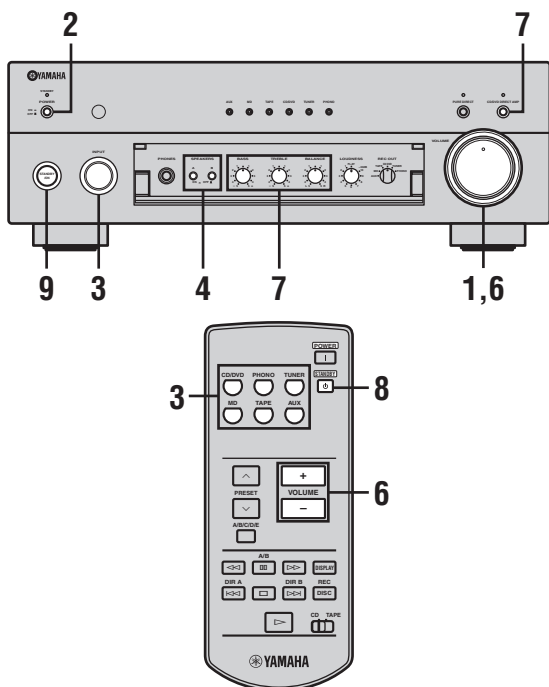
すべての接続が終了したら、ACコンセントに電源プラグを差し込みます。

### ■ AC アウトレット

外部機器の電源プラグを接続します。ACアウトレットへの電源の供給は、フロントパネルのPOWERスイッチおよびSTANDBY/ONスイッチ、リモコンのPOWERキーおよびSTANDBYキーと連動していて、本機の電源がONのときには、接続された機器に電力を供給します。3つのACアウトレットに、合計消費電力50Wまでのオーディオ機器を接続できます。

# 再生・録音のしかた

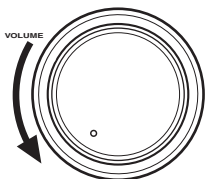
## 再生する



### ご注意

AX-397の場合、フロントパネルのTAPE MONITORインジケータが点灯しているとINPUTセレクターで選択したソースを聴くことができません。インジケータが点灯していないことを確認してから下記の操作を行ってください。インジケータが点灯しているときは、TAPE MONITORキーを押してインジケータを消灯させてください。

- 1 フロントパネルのVOLUMEコントロールを、反時計回りにいっぱいまで回す



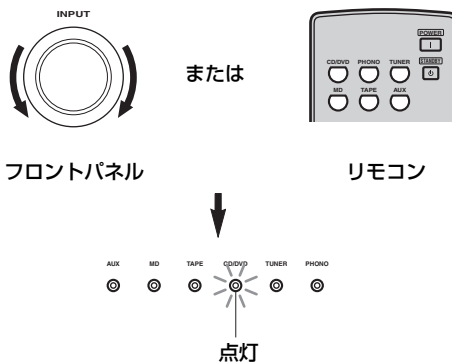
- 2 フロントパネルのPOWERスイッチを押して、ONにする



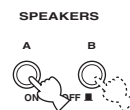
- 3 フロントパネルのINPUTセレクター(またはリモコンの入力選択キー)を押して、入力ソースを選択する

選択した入力のインジケータが点灯します。

- AUX: ビデオデッキ・レーザーディスクプレーヤーなどのAUX端子に接続した機器
- MD: MDプレーヤー
- TAPE: テープデッキ
- CD/DVD: CDプレーヤーまたはDVDプレーヤー
- TUNER: チューナー (FM/AM)
- PHONO: レコードプレーヤー



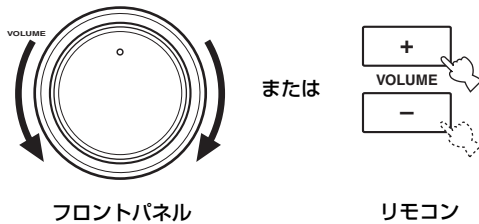
- 4 フロントパネルのSPEAKER A/Bスイッチを押して、スピーカーを選択する



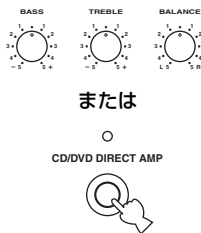
- ・ AB両方のスピーカーを同時に選択することができます。
- ・ ヘッドホンをお使いの場合は、両方のスイッチを押してOFFにしてください。

- 5 ソースを再生する

- 6 フロントパネルの VOLUME コントロールを回す、またはリモコンの VOLUME キーを押して、音量を調節する

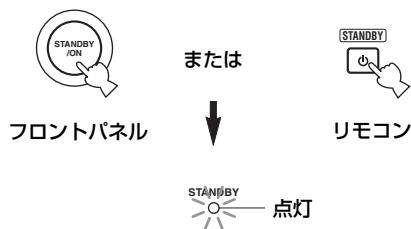


- 7 フロントパネルの BASS、TREBLE、BALANCE または CD/DVD DIRECT AMP キーで音質を調節する



※ AX-497 では、フロントパネルの PURE DIRECT キーでも音質を調節することができます。

- 8 フロントパネルの STANDBY/ON スイッチ、またはリモコンの STANDBY キーを押して本機 の操作を終了し、スタンバイにする  
STANDBY インジケーターが点灯します。



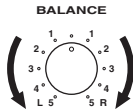
※ AC コンセントからの電力を完全に遮断するには、フロントパネルの POWER スイッチを押して OFF にしてください。



## 音質を調節する

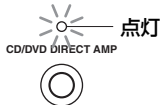
### ■ バランスの調節

左右スピーカーのバランスを調節し、スピーカーの位置やリスニングルームの状態による左右スピーカーの音のアンバランスを補正します。



### ■ CD/DVD DIRECT AMP キーでクリアな音声を楽しむ

INPUT セレクターでの入力選択にかかわらず、CD や DVD プレーヤーからの信号を優先的に再生します。入力信号は INPUT セレクターや BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS コントロール (AX-397 は TAPE MONITOR キーも含まれます) をバイパスするため、原音に忠実な音質で再生することができます。



### ■ PURE DIRECT キーで高品質な音声を楽しむ (AX-497 のみ)

音声入力信号が BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS コントロールをバイパスするため、原音に忠実な音質で再生することができます。



### ご注意

AX-497 で CD/DVD DIRECT AMP と PURE DIRECT キーが同時に ON されているときは、CD/DVD DIRECT AMP の機能が優先されます。

### ■ 低音域と高音域を調節する

低域と高域の周波数特性を調節します。

#### BASS

低域周波数特性を調節します。

#### TREBLE

高域周波数特性を調節します。



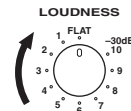
### ■ 低音と高音のレベルを補正する

音量が小さくなるほど低音と高音が聞こえにくくなる人間の聴感特性を補正し、音量にかかわらずすべての音域を自然に再生できるように調節します。

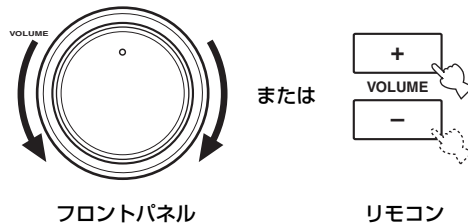
### 重要

LOUDNESS コントロールが調節されているときに、CD/DVD DIRECT AMP キーや PURE DIRECT キー (AX-497 のみ) をオンにした場合、入力信号は LOUDNESS 調節機能をバイパスするため、音量が急に大きくなります。耳やスピーカーをダメージから守るため、CD/DVD DIRECT AMP キーを押す前に (AX-497 では PURE DIRECT キー) LOUDNESS コントロールの調節値を必ず確認し、FLAT 以外に調節されている場合は音量を下げるなどの処置をしてください。

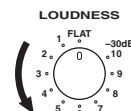
### 1 LOUDNESS コントロールを FLAT の位置にする



### 2 フロントパネルの VOLUME コントロールを回す、またはリモコンの VOLUME キーを押して、音量をお聴きになる最大レベルまで上げる

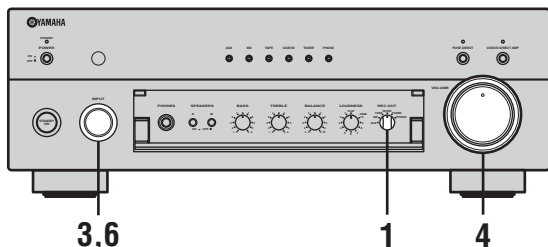


### 3 適度な音量になるまで、LOUDNESS コントロールを回す



## テープデッキや MD レコーダー に録音する

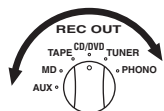
### ■ AX-497



#### ご注意

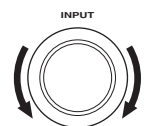
- ・ VOLUME、BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS コントロールや、CD/DVD DIRECT AMP キー、PURE DIRECT キー (AX-497 のみ) の設定は録音には影響しません。
- ・ あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

- 1 フロントパネルの REC OUT セレクターを回して、録音したいソースを選ぶ



- 2 ソースを再生する

- 3 フロントパネルの INPUT セレクターを回す、またはリモコンの入力選択キーを押して、入力ソースを選ぶ



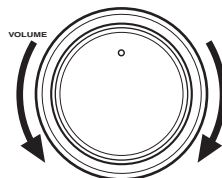
フロントパネル

または



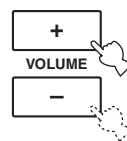
リモコン

- 4 フロントパネルの VOLUME コントロールを回す、またはリモコンの VOLUME キーを押して、音量を調節する



フロントパネル

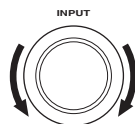
または



リモコン

- 5 テープデッキまたは MD レコーダーの録音を開始する

- 6 正しく録音されているかチェックする場合は、フロントパネルの INPUT セレクターを回す、またはリモコンの TAPE キー / MD キーを押して、TAPE または MD を選ぶ



フロントパネル

または

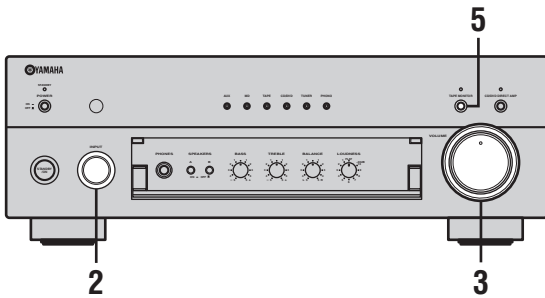


リモコン

#### ご注意

録音中にフロントパネルの INPUT セレクター (またはリモコンの入力選択キー) で別の入力ソースを選択しても、録音には影響しません。

## ■ AX-397

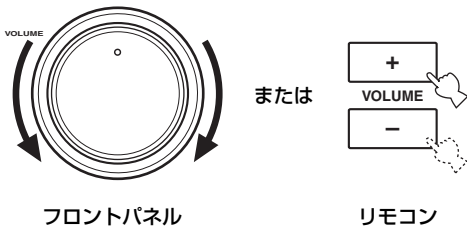


## 1 ソースを再生する

- 2 フロントパネルの INPUT セレクターを回す、またはリモコンの入力選択キーを押して、入力ソースを選ぶ



- 3 フロントパネルの VOLUME コントロールを回す、またはリモコンの VOLUME キーを押して、音量を調節する



- 4 テープデッキまたは MD レコーダーの録音を開始する



3ヘッドのテープデッキで、正しく録音されているかチェックする場合は、TAPE MONITOR キーを押してください。TAPE MONITOR インジケーターが点灯します。チェックを終了するときには、もういちど TAPE MONITOR キーを押します。TAPE MONITOR インジケーターが消灯します。

# 故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを AC コンセントから抜いてからお買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

## ■ 本体

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	—
	インピーダンスの設定が間違っている。	スピーカーに合わせてインピーダンスを設定してください。	7
	インピーダンスセレクタースイッチが確実にセットされていない。	本機の電源をオフにし、インピーダンスセレクタースイッチを止まる位置までスライドさせてください。	7
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）をうけた。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	スピーカーケーブルがショートしている。	スピーカーケーブルの接続を確認してください。	9
音が出ない	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかりと差し込んでください。症状が改善されない場合は、ステレオピンケーブルに問題がないか確認してください。	8
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT セレクター（またはリモコンの入力選択キー）で入力を選択しなおしてください。	11
	SPEAKERS A/B スイッチがオフになっている。	SPEAKERS A/B スイッチをオンにしてください。	11
	スピーカーケーブルがしっかり接続されていない。	スピーカーケーブルの接続を確認してください。	9
	TAPE MONITOR キーがオンになっている。(AX-397)	TAPE MONITOR キーをオフにしてください。	15
音声が突然出なくなる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	インピーダンスが正しく設定されているか確認してください。	7
		スピーカーケーブルがたがいに接触していないか確認し、本機の電源を再度オンしてください。	9
片側のチャンネルの音声ほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	8
	BALANCE コントロールが正しく設定されていない。	BALANCE コントロールを適切に設定してください。	13
低音の再生不良	スピーカーやアンプの +/- が逆に接続されている。	+/- を確認して、正しく接続してください。	9
ハム音が出る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかりと差し込んでください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	8
	レコードプレーヤーのアースが GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の GND 端子に接続してください。	8

レコードの再生音が小さい	MC カートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MC ヘッドアンプまたは MC トランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	—
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の TAPE OUT 端子または MD OUT 端子に接続している機器の電源が入っていない。	接続されている機器の電源を入れてください。	—
本機に接続している CD プレーヤーやテープデッキにヘッドホンを接続していると聴いていると、音が歪む	本機の電源がオフまたはスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	11
音量が小さい	LOUDNESS コントロールが動作している。	LOUDNESS コントロールを FLAT の位置に設定してください。	13
INPUT セレクターを回しても入力ソースが切り替わらない	CD/DVD DIRECT AMP キーがオンになっている。	CD/DVD DIRECT AMP キーをオフにしてください。	13
	TAPE MONITOR キーがオンになっている。(AX-397)	TAPE MONITOR キーをオフにしてください。	15
BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS コントロールの調節が効いていない	CD/DVD DIRECT AMP キー (AX-497 は PURE DIRECT キーも含む) がオンになっている。	CD/DVD DIRECT AMP キー (AX-497 は PURE DIRECT キーも含む) をオフにしてください。	13

## ■ リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できなかったり、正常に動作しない	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	受光部に日光や照明 (インバーター蛍光灯やストロボライトなど) が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	6

# 主な仕様

## パワーアンプ部

- ・定格出力 (8 $\Omega$ , 20Hz ~ 20 kHz, 0.019% THD)
  - [AX-497] ..... 85W + 85W
  - [AX-397] ..... 60W + 60W
- ・ダイナミックパワー (IHF) (8/6/4/2 $\Omega$ )
  - [AX-497] ..... 130/150/185/220W
  - [AX-397] ..... 100/120/140/150W
- ・パワーバンド
  - [AX-497] (0.04% THD, 42.5W, 8 $\Omega$ ) ..... 10Hz ~ 50kHz
  - [AX-397] (0.04% THD, 30W, 8 $\Omega$ ) ..... 10Hz ~ 50kHz
- ・ダンピングファクター
  - 20Hz ~ 20kHz, 8 $\Omega$  ..... 240 以上
- ・実用最大出力 (EIAJ) (1kHz, 10% THD, 8/6 $\Omega$ )
  - [AX-497] ..... 130/150W
  - [AX-397] ..... 100/110W
- ・最大許容入力
  - PHONO(1kHz, 0.003% THD) ..... 115mV 以上
  - CD 他 (1kHz, 0.5% THD) ..... 2.2V 以上
- ・周波数特性
  - CD 他 (20 Hz ~ 20 kHz) ..... 0  $\pm$  0.5dB
  - CD 他 (20 Hz ~ 100 kHz) ..... 0.5 ~ -3.0dB
- ・RIAA 偏差
  - PHONO .....  $\pm$  0.3dB
- ・全高調波歪率
  - PHONO-REC OUT  
(20Hz ~ 20 kHz, 3V) ..... 0.003% 以下
  - CD 他 -SP OUT  
(20Hz ~ 20kHz, 42.5W, 8 $\Omega$ ) ..... 0.008% 以下
- ・S/N 比 (IHF-A ネットワーク)
  - PHONO(入力ショート) ..... 88dB 以上
  - CD (入力ショート) ..... 110dB 以上
  - CD/DVD DIRECT AMP ON ..... 110dB 以上
- ・残留ノイズ (IHF-A ネットワーク)
  - [AX-497]
    - CD/DVD DIRECT AMP ON ..... 35 $\mu$ V
    - PURE DIRECT ON ..... 90 $\mu$ V
  - [AX-397]
    - CD/DVD DIRECT AMP ON ..... 35 $\mu$ V
    - CD/DVD DIRECT AMP OFF ..... 100 $\mu$ V

## コントロール部

- ・入力感度 / 入力インピーダンス
  - PHONO ..... 3.0mV/47k $\Omega$
  - CD 他 ..... 150mV/47k $\Omega$
- ・出力電圧 / インピーダンス
  - REC OUT ..... 150mV/1.6k $\Omega$  以下
- ・ヘッドホン出力 / インピーダンス
  - CD 他 (入力 1kHz, 150mV, 8 $\Omega$ , 0.019% THD)
    - [AX-497] ..... 0.3V/680 $\Omega$
    - [AX-397] ..... 0.25V/680 $\Omega$
- ・チャンネルセパレーション
  - CD 他 (5.1 k $\Omega$  入力ショート, 1/10kHz) ..... 65/50dB 以上
- ・トーンコントロール特性
  - BASS
    - Boost/Cut(20Hz) .....  $\pm$ 10dB
    - ターンオーバー周波数 ..... 350Hz
  - TREBLE
    - Boost/Cut(20kHz) .....  $\pm$ 10dB
    - ターンオーバー周波数 ..... 3.5kHz
- ・コンティニューアスラウドネスコントロール
  - 最大補正率 (1kHz) ..... -30dB

## 総合

- ・電源電圧 ..... AC100V, 50/60Hz
- ・消費電力
  - [AX-497] ..... 140W
  - [AX-397] ..... 120W
- ・待機時消費電力
  - [AX-497] ..... 1.1W
  - [AX-397] ..... 0.9W
 (フロントパネルの POWER スイッチが OFF の場合、消費電力は 0W です。)
- ・AC アウトレット ..... 3 (合計 50 W)
- ・寸法 (W  $\times$  H  $\times$  D) ..... 435  $\times$  151  $\times$  391mm
- ・質量
  - [AX-497] ..... 9.5kg
  - [AX-397] ..... 8.7kg

\* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

### ■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

### ■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル  
(全国共通)



0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。  
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459  
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）  
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

### ■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル  
(全国共通)



0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。  
TEL (053) 460-4830

FAX (053) 463-1127

受付日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）  
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:30

### 修理お持ち込み窓口

受付日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）  
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50  
ヤマハセンター内  
FAX (011) 512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200  
ヤマハ(株)和田工場内  
FAX (053) 462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2  
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F  
FAX (052) 652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28  
オーク江坂ビルディング2F  
FAX (06) 6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4  
FAX (092) 472-2137

\*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

### ● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

### ● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### ● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

### ● 修理料金の仕組み

**技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

**部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

**出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

### ● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### ● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

### ● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

### ● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## 永年ご使用の製品の点検を!



愛情点検

### こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

